

2022 年度 自己評価報告書

星稜高等学校

具体的取り組み	評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
教務課			
1. 時間割変更をミスなく行い、生徒に確実に授業を提供する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	できる限り振替をし、授業時間の確保に最大限努力した。ただし、振替のミス、ホワイトボードへの転記ミスについては多少あったので、慎重に行っていきたい。
2. ミスが起こらない環境づくり、システム運用を行う。また、情報共有を確実に言い仕事の無駄をなくす。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	C	新しい教務システムによる成績処理や出欠席処理であったため、例年以上にミスが発生した。来年度はマニュアルを再検討したい。
3. 新学習指導要領の改訂に伴い、それに対応する学習評価方法を検証する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	観点別評価初年度であり、年度途中で成績伝票を差し替える必要があった。評価方法については今年度の評価を検証し、必要があれば来年度変更していきたい。
進路指導課			
国公立大学への進路の実現を希望する生徒・保護者が多い現状を踏まえ、各学年と共同し、1 年生には学習習慣の定着と適正な文理選択を促し、2 年生にはキャリアに繋がる学部学科研究を行う中で早い段階から受験意識の向上をはかる。	満足度指標 A：1・2 年生 70%以上 B：1・2 年生 60%以上 C：1・2 年生 50%以上 D：1・2 年生 50%未満	A	学校評価アンケートの「進学指導が充実している」の項目において、すべての学年の満足度が上昇し、1 年生は 66%→ <u>74%</u> 、2 年生は 69%→ <u>76%</u> 、3 年生は 79%→ <u>83%</u> となった。次年度も引き続き、高水準を保持していきたい。
最終学年となる 3 年生に対し、多様な入試制度を理解させた上で、公正な指定校推薦の在り方等を模索しつつ、安易に諦めることなく個々の志望校に向き合えるような進路指導の機会を提供し続け、殊に国公立大学合格者数においては、現役 90 名以上、再受験者あわせて 110 名以上を目指す。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	大学名だけに惹かれ指定校推薦を利用しないよう志望理由書の提出を義務付け、「赤本チャレンジ」では国公立大学への挑戦を促した。上記のアンケート項目では、過年度だけでなく過回としても比較すると、2 年次に 69%だったものが 83%へと大幅に上昇した。
本校の生徒が新しい時代に対応できる知識や技能、思考力や表現力を身につけ、国際社会の諸問題に尽力できる人材に育つよう、土曜講座 GSP の内容を、生徒の多様な能力、適性、関心等に応じたものへと更に充実させることで、土曜日に主体的に活動する意欲を高め、学力向上に寄与する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	1 学期は 66、2 学期は 97、3 学期は 45 と豊富な講座をラインナップし、新たに「GSP JOURNAL」を発刊し、その魅力ある内容を生徒や保護者、外部の方に周知するよう努めた。結果として理系の講座が少なめであったという点で、次年度への改善に繋げていきたい。
進路指導課主導の行事や発行物等において、生徒の学習到達度状況や最新の進学情報について正確に伝達・発信できる環境を整備し、教職員はもちろんのこと、生徒・保護者とも十分に共有しながら、ひいては進学実績の向上に繋げていく。	満足度指標 A：合計 70%以上 B：合計 60%以上 C：合計 50%以上 D：合計 50%未満	A	学校評価アンケートの「進学指導に必要な情報は、生徒・保護者に対し十分に提供されている」の項目において、全体の満足度が 58%→ <u>85%</u> へと大幅に上昇した。情報発信の際は、生徒・保護者の需要にさらに応えていきたい。

生徒指導課			
あいさつ運動を更に推進することにより生徒の自発的な挨拶を促し、教職員や外部の方々との爽やかな交流を通して、笑顔の溢れる学校生活の場を築く。	努力指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケート結果による自己評価とは別に、マスク着用の影響による消極的な様子も見受けられ、かけられた挨拶にうなずく生徒が少なからずいた。自発的に挨拶がいまだ難しい現状もあり。個々の生徒があいさつをさらに自然とできる運動を進めて行くことが必要。
通学マナーを向上させながら、地域に貢献できる指導を目指す。	努力指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケート結果ではよい結果だが、感染予防のマスク装着や自転車通学者や公共交通機関を利用する生徒のマナーに関しての苦情の連絡がたびたびあった。常にマナーを意識する指導が必要。
具体的取り組み	評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
総務広報課			
総務部門 学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各学年、各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 ＊入学前オリエンテーション ＊入学式 ＊後援会総会 ＊保護者対象説明会 ＊保護者懇談会 ＊推薦入試・一般入試 ＊専願合格者説明会 ＊卒業式 ＊入学説明会 ＊机・椅子の移動	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	コロナ禍でしたが行事は概ね良好に実施できた。多くの教員で協力し合い、無事に行事が実施できた。12月から翌年 4 月まで重要な行事が続きますが、余裕を持って準備し、円滑に実施できるようにする。
広報部門 「GROW SEIRYO」のもと、一貫理数コース、ICT教育、土曜GSPの取り組みや入試のWeb出願、推薦入試などを周知させるため、ハード面とソフト面を強化し、星稜の今をタイムリーに伝えていく。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	課の再編により業務が滞った感がややあるが、概ね業務は遂行できた。富山全県模試ハンドブックへの広告掲載とテレビCM広告がなくなり、今の広告の見直しと新しい広告の仕方を考える必要性がある。
特活課			
生徒会活動および委員会活動において生徒の自主性・主体性を重んじ、活発に活動が行われるように支援する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	生徒会活動では、中学生を対象とした学校見学会での学校紹介動画、リーフレットの作成や生徒会広報誌の作成、制服に関するアンケートの実施など、新たな取り組みを行うことができた。委員会活動については、計画的な活動が難しい中で、安全に配慮して実施できた。また、お昼休みの放送を利用した生徒会活動も 3 年目となり、生徒の学校生活の一部となってきた。
各部がそれぞれの目標を設定し、目標に向かって努力できる環境を整える。部活動加入率 70%以上を目指し、文武両道の実現を図る。	成果指標 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	A	今年度 6 月時点での部活動加入率は 77.1%で、昨年度 77.4%と同等となり、目標としていた 70%を超える結果となった。新入生を対象に部活動のPRを効果的に行うと共に、各部が大会等の目標設定とプロセスを大切にすることで、より魅力的な活動となるように支援したい。
自己の健康課題について認識させ、個別の保健指導を実施する。視力・聴力および歯科検診の受診率向上を目指し、保健だよりにクラス毎の受診率を掲載する等、受診意識向上に繋げていく。	成果指標 A：50%以上 B：45%以上 C：40%以上 D：40%未満	A	各検診の受診率は検尿 92%、内科検診・胸部 X 線・心臓検診 100%、歯科検診 20%（う歯保有率 3.2%）、視力（聴力の要精検者はなし）は 24%であった。受診勧告は年間で 3 回以上行っているが、受診率の低さが目立つ。検診の欠席者が年々増加しているため、来年度は、自らの健康意識やセルフケアへの関心を増やせるような取り組みを行い、まずは積極的な検診への参加に繋げたい。

情報システム課			
ハードウェアを安定して稼働させ業務の効率化を安定させる。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	職員 PC，コンピュータ室 PC，ファイルサーバ，メディアサーバ，各職員室共用 Mac，採点ナビ（マークリーダ用）PC などの入れ替えを行った。機器変更による操作性の不都合はあったが，動作に関しては問題なかった。
ソフトウェアの面での業務の効率化をさらに進める。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	今年度より教務システムが本格的に稼働し，一通りの業務を経験した。事前に予期することができなかった操作性に関しては不都合を与えたが，運用していくことは可能であったと考える。引き続き検討を重ねていく。
入試業務は情報共有によりチェック体制を整え，ミスの起こらないように業務を進めていく。また Web 出願に関しては日程等の確認を確実に実行運用していく。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	Web 出願も 3 年目となるが，1 年に 1 回のことなので変則的な例の時は作業に戸惑うことがあった。 日程に厳しい部分もあったが，確認は確実に実行運用できた。
《次年度における校務改善に向けて》 すべてのコースにおいて、タブレットの機能を用いて学習時間を教科別に計測し、学校がその経過を見守っていきます。試験の 2 週間前など筋目として特にその取り組みを生徒に強く意識してもらいたいときに学校として全体に声をかけることで、「試験を大切にする」という心構えを伝えていき、それに加えて様々な取り組みを充実させる計画を進行中である。今後も、保護者アンケートや学校生活アンケートで、満足する評価が得られるように、各項目を検証し、コース制の特徴を生かしながらも、学校全体で取り組める教育活動を更に増やしていく。 公立校には見られない独自性あふれる形で更なる教育力の向上を目指し、3 観点による新しい学習指導と評価に向けて、意欲的に取り組んでいきたい。			